

令和7年度 第3学期始業式式辞

最初に31年前の1月17日に発生しました阪神・淡路大震災の犠牲になられた方々に哀悼の意を表し、黙禱を捧げたいと思います。(黙禱)

改めて皆さん、おはようございます。そして、あけましておめでとうございます。

本日、皆さんが元気に登校し、この冬休み中も大きな事故やけがもなく、無事に始業式を迎えられたことに感謝します。

令和8年がスタートしました。皆さん、新たな決意や目標を持って、それぞれ新年を迎えたことでしょうか。今年のお正月は暖かく、穏やかな天候で過ごしやすかったですね。私は近所の神社に初詣に行きましたが、元旦は全日本実業団駅伝、2日、3日は箱根駅伝をテレビ観戦していました。特に、箱根駅伝を見ていた人は、青山学院大学の往路・復路・総合のすべてにおいて、大会新記録による完全優勝には圧巻させられたことでしょうか。

その中でも5区山登りの黒田朝日選手は、トップ通過から3分34秒遅れの5位で襷をもらい、ゴール時に2位の選手を18秒引き離す快走を見せ、私もテレビに釘付けとなっていました。今でこそ、青山学院大学は常勝軍団になっていますが、最初は監督、寮母の奥様ともに選手との考え方、行動の仕方等での確執が生じ、苦労されていたようです。新しいことを始めることは、異物、違和感を受け入れるような感覚にもなりますが、箱根出場、優勝という目的を達成するために、計り知れない労力を費やしたことには間違いありません。皆さんも変化を恐れず、チャレンジしていきましょう。その他にも高校サッカーやラグビーなどのテレビ観戦をしながら、改めてスポーツの素晴らしさを実感し、新年早々、たくさんの勇気と感動をもらいました。

さて、2年前の元旦は最大震度7を観測する能登半島地震、一昨日には島根県東部で最大震度5強の地震が発生し、今も断水等の生活支援が必要な状況が続いているようです。冒頭、阪神・淡路大震災の追悼もしましたが、自然災害はいつ、どこで、どんな規模で起こるかは予測困難です。皆さんも防災活動の一環として、改めて家庭での防災グッズの確認、家具等転倒防止対策や被災時に電気・ガス・スマホなど使えない状況時の備え、家族で安否確認できる方法など、是非、家族で具体的な話をしてみる機会にして欲しいと思います。

今年は、午(うま)年です。「人間万事塞翁が馬」という馬に関する日本のことわざがあります。このことわざは、紀元前の中国の『淮南子』という書物に記された故事に由来します。その故事のあらすじは、『中国の北の塞に住む老人の馬が逃げ出しました。周囲の人々は同情しましたが、老人は「これが福となるかもしれない」と言いました。数ヶ月後、逃げた馬が駿馬を数頭連れて帰ってきました。人々が喜ぶ中、老人は「これが禍(わざわい)となるかもしれない」と述べました。その後、老人の息子がその駿馬から落ちて足を骨折しました。人々が慰めると、老人は再び「これが福となるかもしれない」と言いました。1年後、戦争が起こり、多くの若者が兵役で命を落としましたが、老人の息子は足の

怪我のため兵役を免れ、命が助かりました。』という中国の古いお話です。

つまり、人生における幸・不幸は予測できないものであり、何が吉と出るか・凶と出るかは、その時々では判断できないということを意味することわざです。一見不運に見える出来事が幸運につながり、その逆もまた起こりうることを示しています。「いいことがあっても浮かれず、悪いことがあっても気を落とさない」「安易に喜んだり、悲しんだりすべきではない」という教えも含まれています。

今年は皆さんも午年にあやかって、馬のごとく、さらに躍動し、力強く駆け抜ける成長を遂げてほしいと思っています。

一人ひとりが最後まで自分を信じて、決して自分で自分の限界を作らないように、最後まで諦めずに、まずは何ごとにもやってみるというチャレンジから始めていきましょう。特に、3年次の受験を控えている皆さん、あとひと踏ん張りしましょう。皆さん、今、この瞬間を大切に、悔いの残らない瞬間を積み重ねていきましょう。

最後に、今学期は卒業式、総合学科発表会、年度末考査など、3年次は3年間、1・2年次は1年間の集大成となります。3年次は卒業後を見据えて、2年次は悔いの残らないこれからの1年間の過ごし方、1年次は次年度、中堅年次としていけるよう、各年次でしっかりとけじめをつけた年次の締めくくりとしていきましょう。これから感染症が流行する可能性もあります。各自が体調管理に努めて、令和8年が皆さんにとって、素晴らしい1年となることを願ひまして、第3学期始業式の式辞とします。

令和8年1月8日

学校長